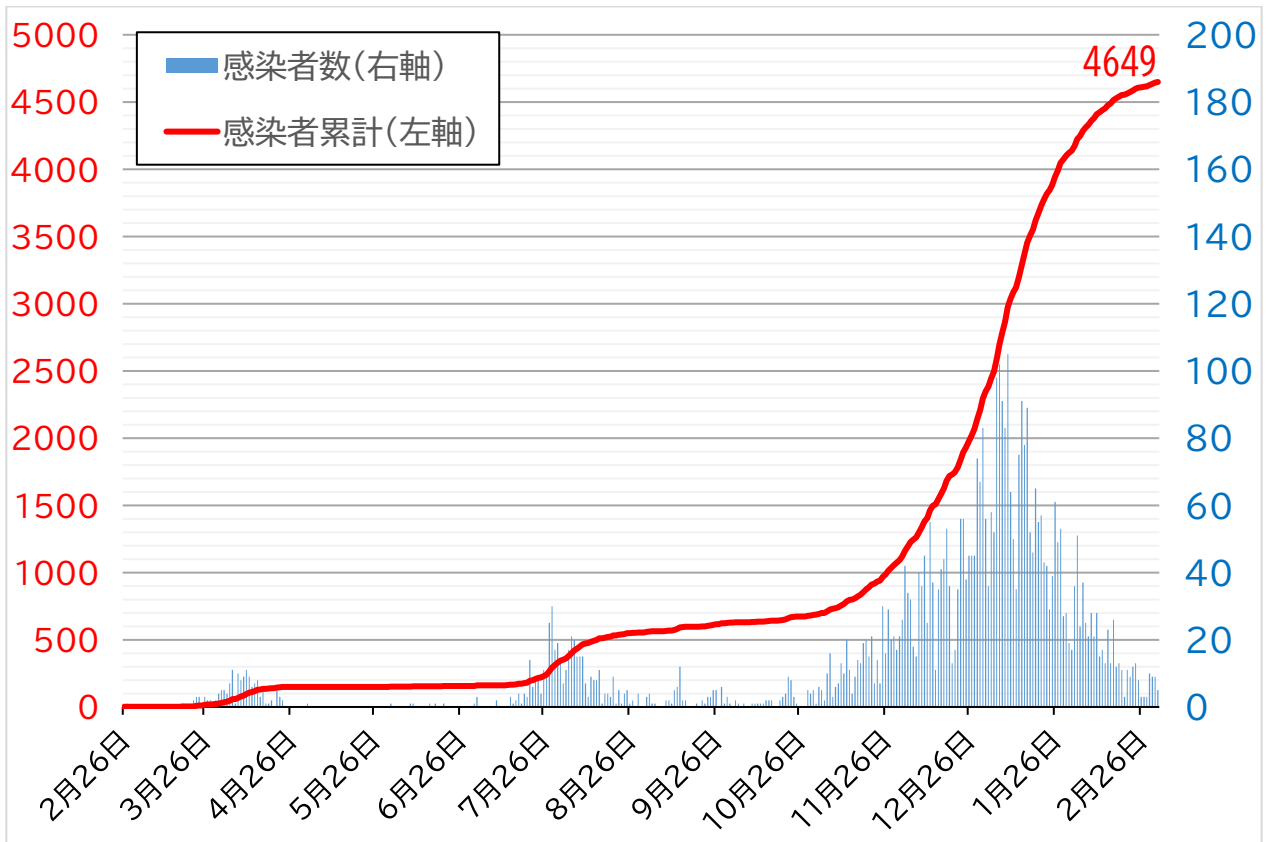


県内の感染状況

3月4日時点



	令和2年												3年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
感染者数	2	24	123	1	6	175	224	71	60	386	1220	1828	
累計	2	26	149	150	156	331	555	626	686	1072	2292	4120	

2月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日
感染者数	17	36	51	24	37	25	21	28	21	28	15
累計	4137	4173	4224	4248	4285	4310	4331	4359	4380	4408	4423

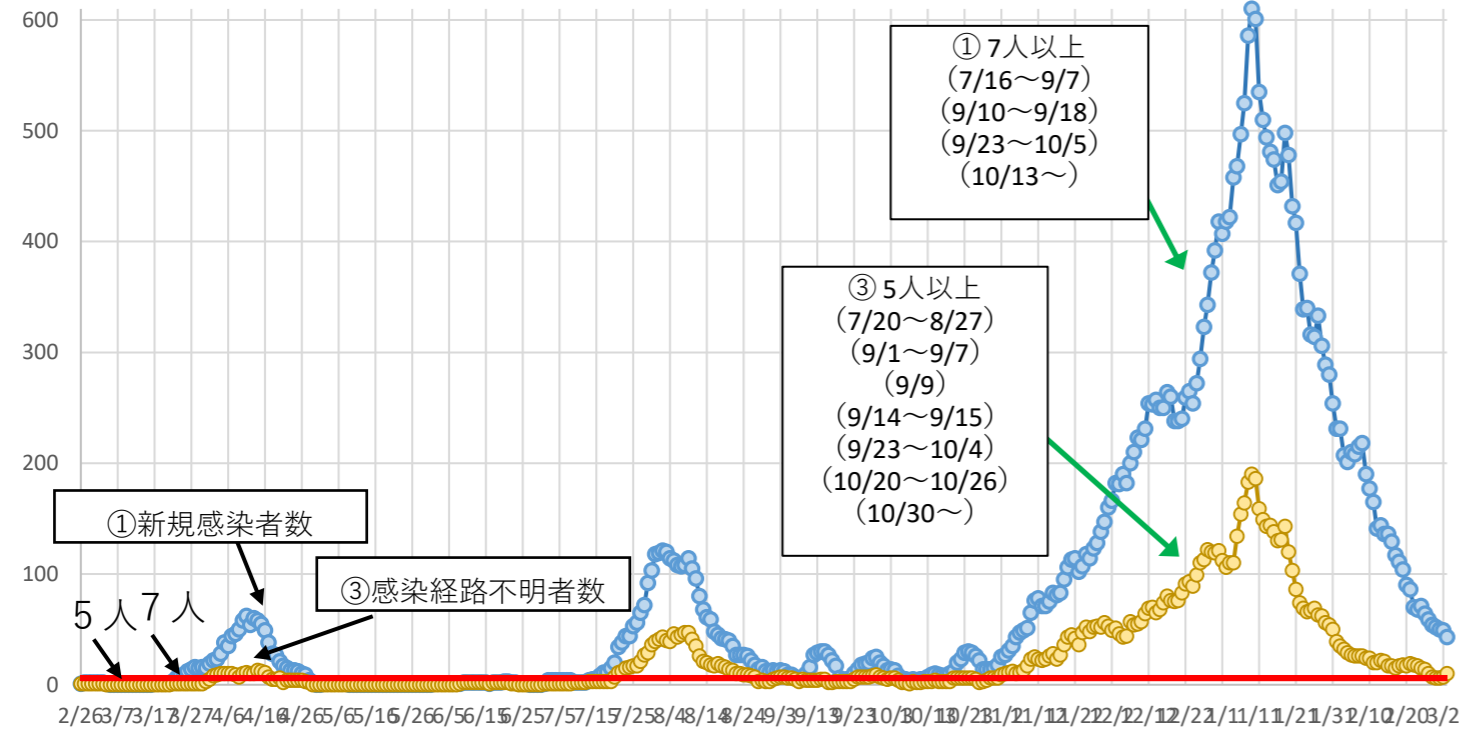
12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日
17	13	23	13	26	12	13	11	3	11	9
4440	4453	4476	4489	4515	4527	4540	4551	4554	4565	4574

23日	24日	25日	26日	27日	28日
12	13	8	3	3	3
4586	4599	4607	4610	4613	4616

3月	1日	2日	3日	4日
感染者数	10	9	9	5
累計	4626	4635	4644	4649

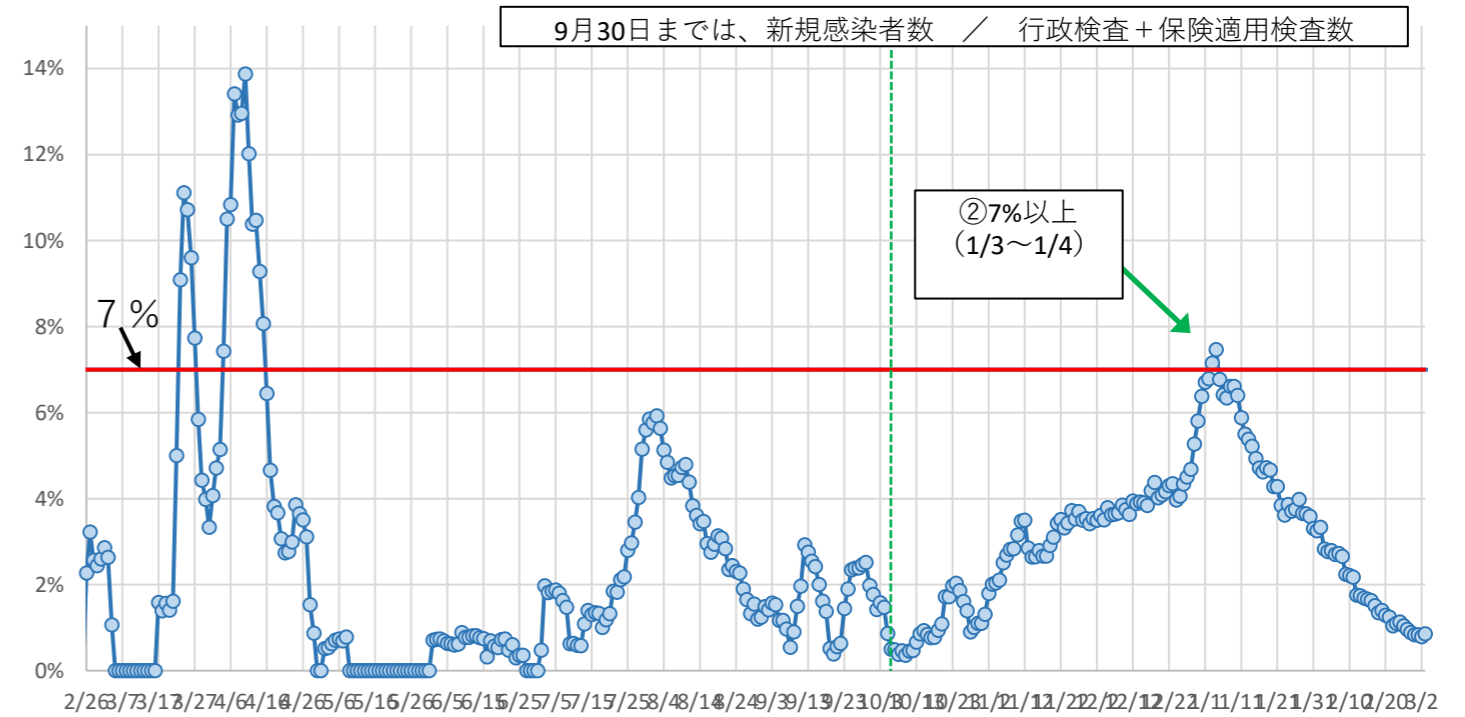
基準指標の状況（3月4日0時現在）

①新規感染者数	7人以上 (7日間移動合計)	43人	基準を上回る	10月13日から (142日間)
③感染経路不明者数	5人以上 (7日間移動合計)	10人	基準を上回る	10月30日から (125日間)

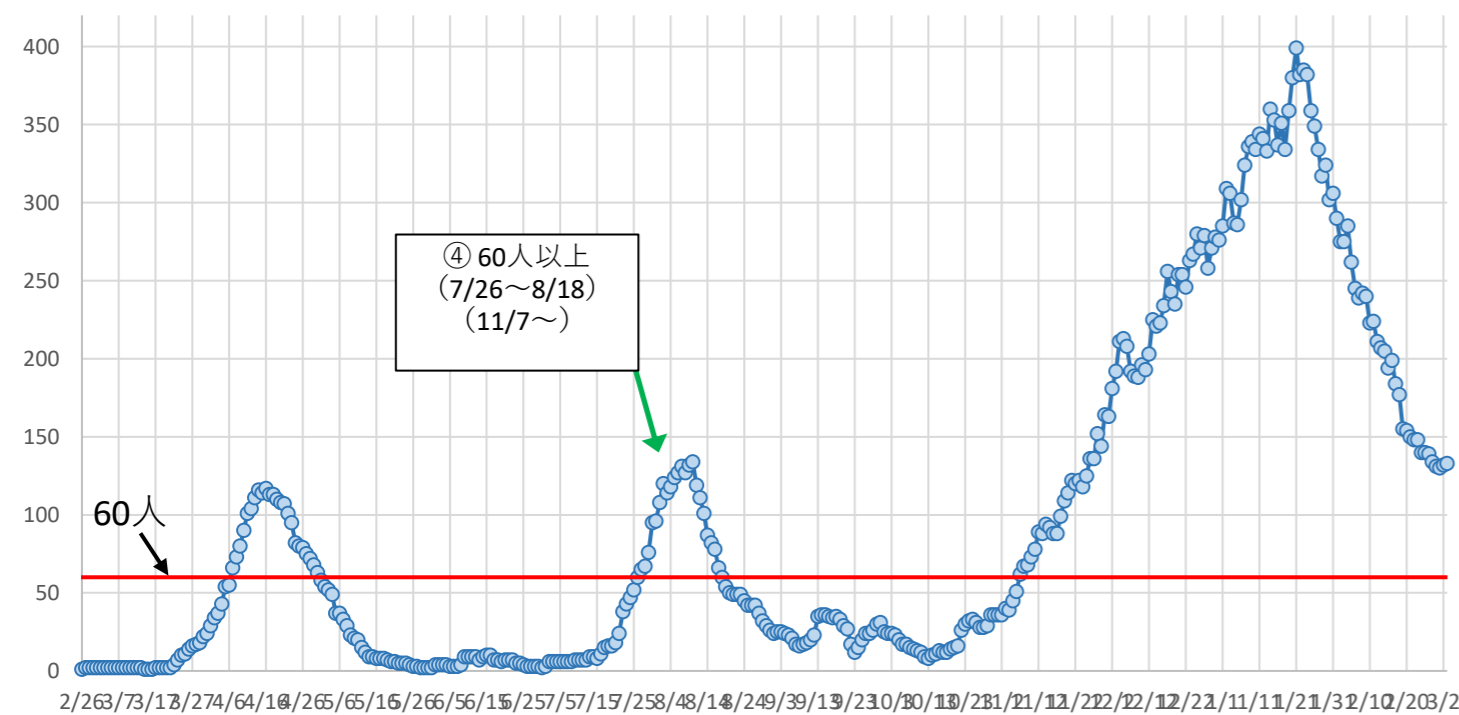


②検査陽性率 (速報値)	7%以上 (7日間移動平均)	0.9%	基準を下回る	1月5日から (58日間)
-----------------	-------------------	------	--------	------------------

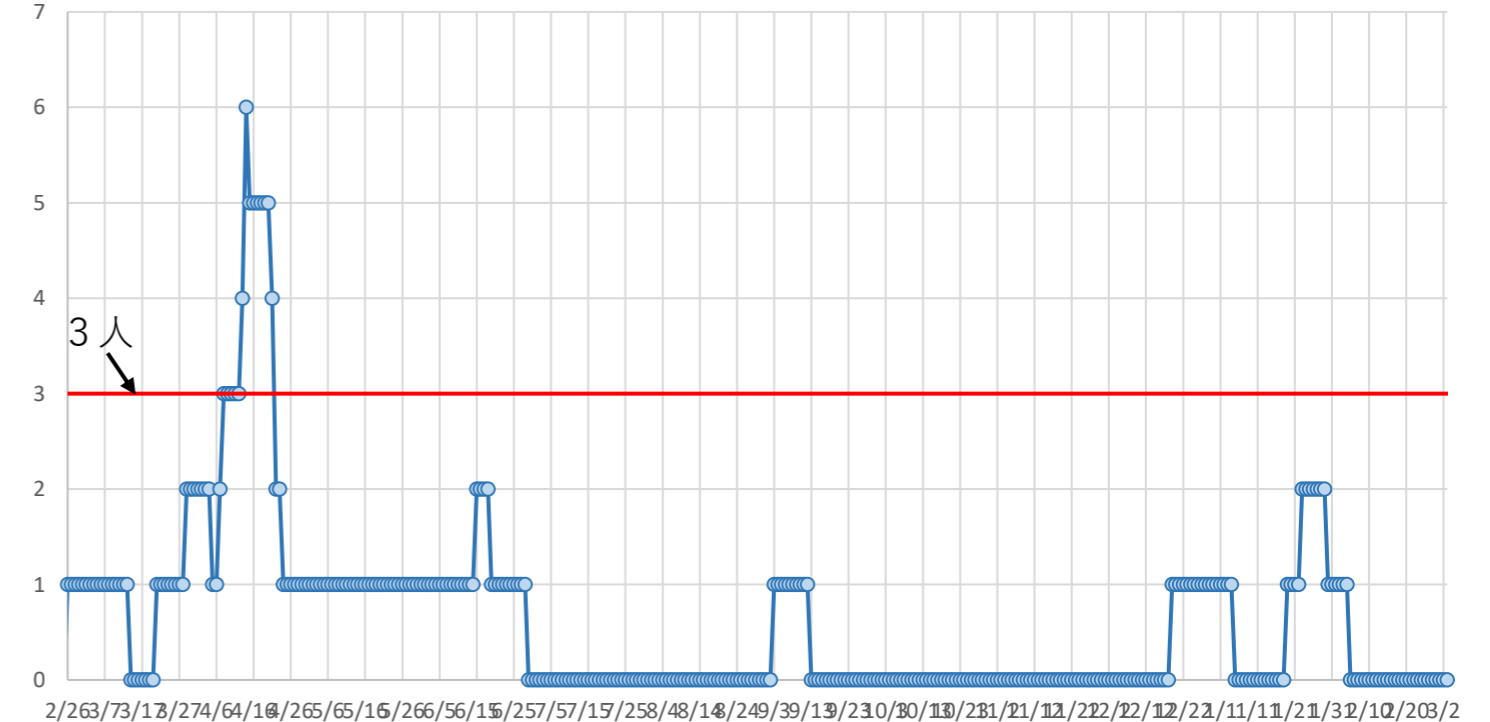
※ 新規感染者数 / 行政検査+病院・診療所等の検査件数の全件数 (3月3日までに報告のあった件数)



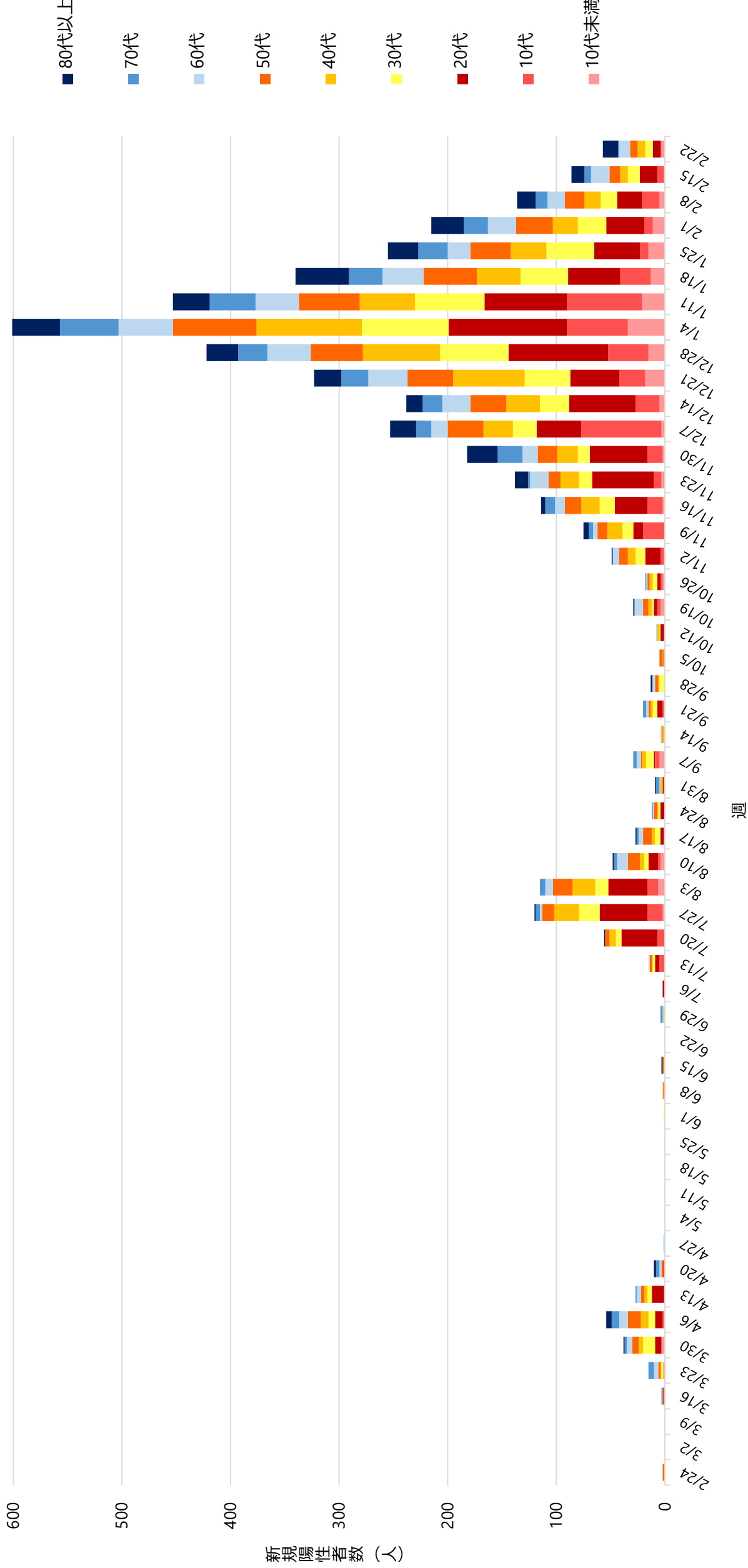
④入院患者数	60人以上	133人	基準を上回る	11月7日から (117日間)
--------	-------	------	--------	--------------------



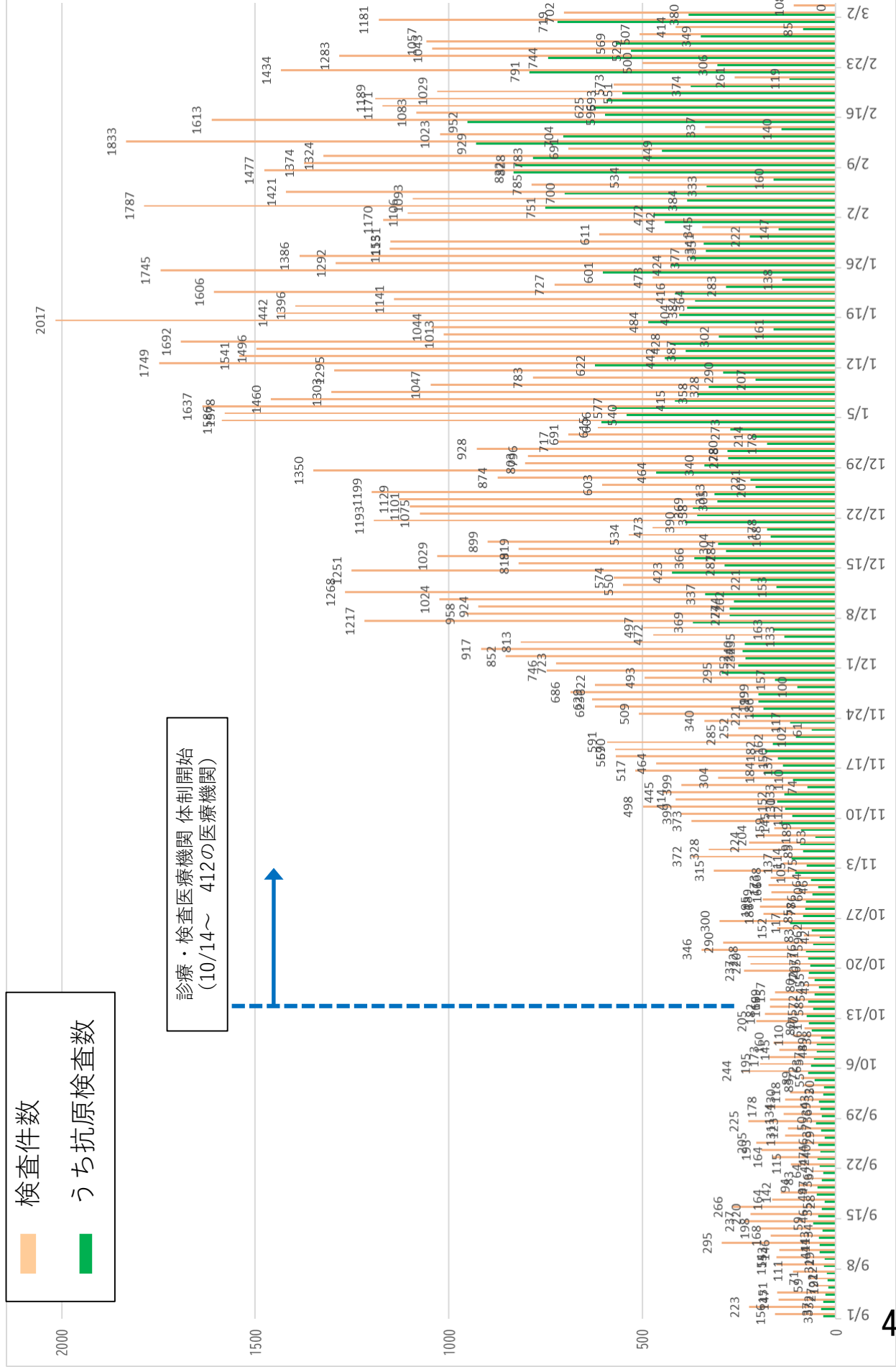
⑤重篤者数	3人以上	0人	基準を下回る	4月22日から (316日間)
-------	------	----	--------	--------------------



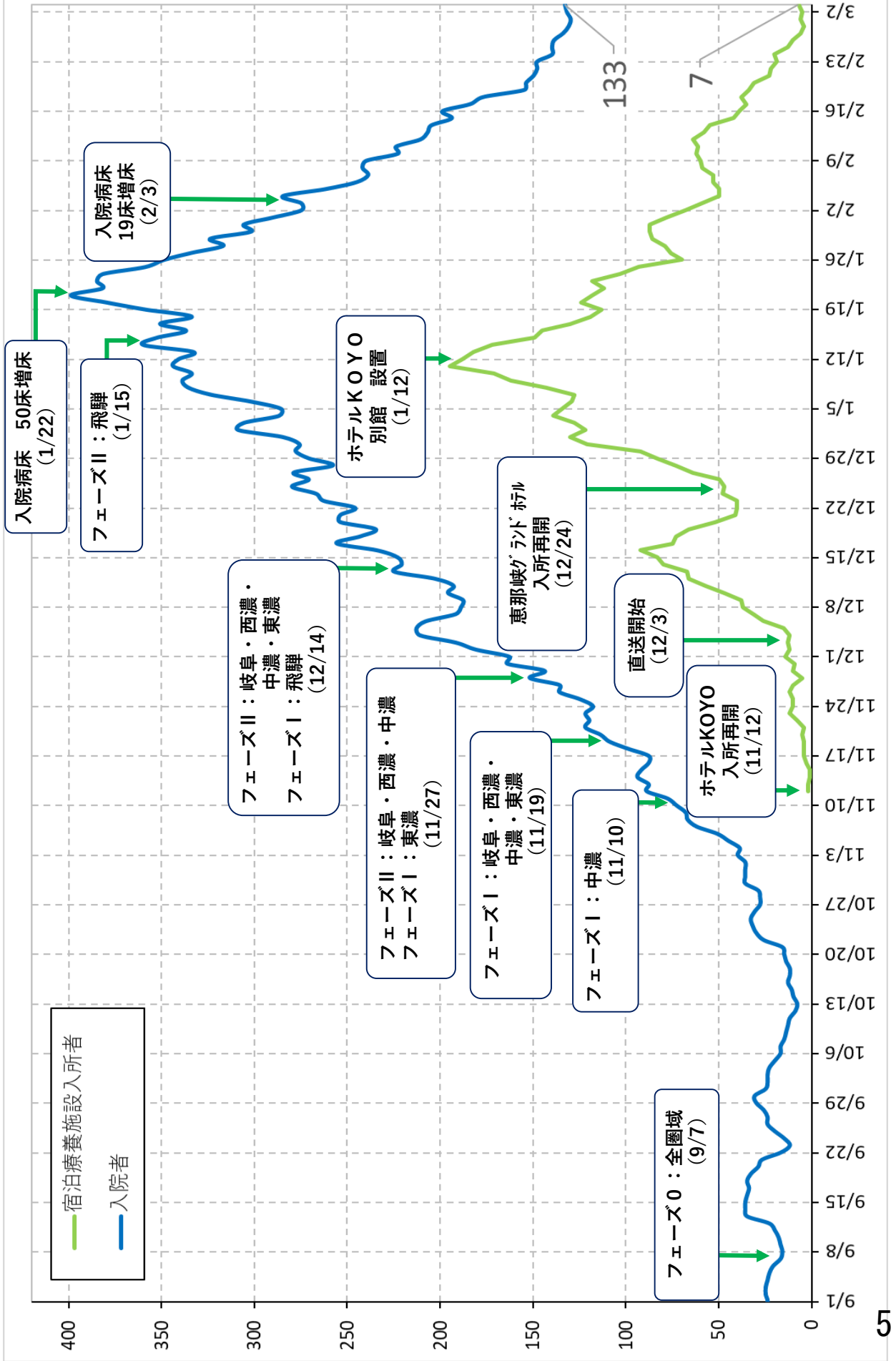
週別・年代別・新規患者数推移



岐阜県の検査状況について



岐阜県の入院病床・宿泊療養施設について





令和3年3月3日（水）岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
感染症対策推進課	感染症対策 第一係	居波 由紀子	内線 2543 直通 058-272-8270 FAX 058-278-2624

新型コロナウイルス（変異株）感染者について

新型コロナウイルス感染症の患者等について、国立感染症研究所で検査したところ、南アフリカにおいて報告された変異した新型コロナウイルス感染症（変異株）が県内において1例確認された、との報告がありましたので、公表します。

○新型コロナウイルス（変異株）の感染者の状況

No.	年代	性別	居住地	症状・経過	備考
1	50代	女性	岐阜県	2月下旬発症	海外渡航歴なし 不特定多数との接触なし

報道関係者 各位

令和3年3月3日

健康局結核感染症課
感染症情報管理室長 梅田 浩史
課長補佐 加藤 拓馬
係長 山田 大悟
(代表番号) 03(5253)1111

新型コロナウイルス感染症（変異株）の患者等の発生について

海外から空港に到着した乗客で、検疫により確認された新型コロナウイルス感染症の患者等について、国立感染症研究所で検査したところ、英国において報告された変異した新型コロナウイルス感染症（変異株）が8例確認されましたので、公表いたします。

また、新型コロナウイルス感染症の患者等について、国立感染症研究所で検査したところ、英国において報告された変異した新型コロナウイルス感染症（変異株）が8例、南アフリカ共和国において報告された変異した新型コロナウイルス感染症（変異株）が1例確認されましたので、公表いたします。

厚生労働省としては、引き続き、各国政府やWHO、専門家等とも連携しつつ、諸外国の感染状況を注視しながら、機動的な感染拡大防止対策に努めてまいります。

また、報道機関各位におかれましては、ご本人やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。

参考 感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の新規変異株について（第6報）（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/10169-covid19-35.html>

【新型コロナウイルス感染症（変異株）の患者等の発生状況】（空港検疫）

No	到着地	到着日	年代	性別	滞在国	症状
1	関空	2月16日	50代	男性	パキスタン	無症状
2	成田	2月16日	50代	男性	パキスタン	咳嗽
3	成田	2月16日	30代	男性	アラブ首長国連邦	発熱、嘔吐、下痢
4	羽田	2月17日	20代	男性	アイルランド、スイス、フランス	無症状
5	成田	2月18日	40代	男性	パキスタン	無症状
6	成田	2月19日	20代	男性	アメリカ合衆国	無症状
7	成田	2月20日	30代	男性	パキスタン	無症状
8	羽田	2月23日	40代	女性	ルーマニア	無症状

※ No. 1～8 は英国において報告された変異株

【新型コロナウイルス感染症（変異株）の患者等の発生状況】（国内）

No	年代	性別	居住地	症状・経過	備考
1	10代	男性	群馬県	2月中旬 発症	<ul style="list-style-type: none"> ・海外滞在歴なし ・不特定多数との接触なし ・2/9公表 No. 11の濃厚接触者
2	非公表	女性	京都府	2月中旬 発症	<ul style="list-style-type: none"> ・海外滞在歴なし ・不特定多数との接触なし
3	50代	男性	千葉県	2月中旬 発症	<ul style="list-style-type: none"> ・海外滞在歴なし ・不特定多数との接触なし
4	50代	女性	岐阜県	2月下旬 発症	<ul style="list-style-type: none"> ・海外滞在歴なし ・不特定多数との接触なし
5	30代	男性	神奈川県	2月中旬 発症 2月中旬 入院	<ul style="list-style-type: none"> ・海外滞在歴なし ・不特定多数との接触なし
6	20代	女性	神奈川県	2月中旬 発症 2月中旬 入院	<ul style="list-style-type: none"> ・海外滞在歴なし ・不特定多数との接触なし ・公表 No. 5の濃厚接触者
7	10歳未満	男性	神奈川県	2月中旬 発症 2月中旬 入院	<ul style="list-style-type: none"> ・海外滞在歴なし ・不特定多数との接触なし ・公表 No. 5の濃厚接触者
8	10歳未満	男性	神奈川県	2月中旬 発症 2月中旬 入院	<ul style="list-style-type: none"> ・海外滞在歴なし ・不特定多数との接触なし ・公表 No. 5の濃厚接触者
9	非公表	男性	鹿児島県	2月中旬 発症	<ul style="list-style-type: none"> ・海外滞在歴あり ・不特定多数との接触なし

※ No. 4は南アフリカ共和国において報告された変異株

【参考】新型コロナウイルス感染症（変異株）の患者等の発生について（2月9日公表）

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_16649.html

新型コロナウイルス感染症（変異株）への対応



厚生労働省 新型コロナウイルス感染症対策推進本部

Ministry of Health, Labour and Welfare

1. N501Yの変異のある変異株

- 「N501Yの変異がある変異株」は、従来株よりも感染性が増していることが懸念されている。
- 英国で確認された変異株(VOC-202012/01)、南アフリカで確認された変異株(501Y.V2)、ブラジルで確認された変異株(501Y.V3)がこの変異を有している。
- 我が国では、214例（国内165例、空港検疫49例）を確認している。

2. E484Kの変異がある変異株

- 「E484Kの変異がある変異株」は、従来株よりも免疫やワクチンの効果を低下させる可能性が指摘されている。
- 南アフリカで確認された変異株(501Y.V2)、ブラジルで確認された変異株(501Y.V3)がこの変異を有している。

※ 上記のほかにも「N501Yの変異はないがE484Kの変異がある変異株」を、現在、我が国では、93例（国内91件、空港検疫2件）確認している。

我が国の新型コロナウイルス感染症（変異株）の確認状況

2021/03/02時点

計	214
---	-----

国内事例	英国で報告された変異株	159	南アフリカで報告された変異株	4	ブラジルで報告された変異株	2
	165	159	4	2		

空港検疫	英国で報告された変異株	36	南アフリカで報告された変異株	8	ブラジルで報告された変異株	5
	49	36	8	5		

都道府県別	患者数
1 北海道	0
2 青森県	0
3 岩手県	0
4 宮城県	0
5 秋田県	0
6 山形県	0
7 福島県	5
8 茨城県	1
9 栃木県	1
10 群馬県	2
11 埼玉県	38
12 千葉県	0
13 東京都	14
14 神奈川県	9
15 新潟県	29
16 富山県	0
17 石川県	0
18 福井県	0
19 山梨県	2
20 長野県	1
21 岐阜県	0
22 静岡県	7

都道府県別	患者数
23 愛知県	0
24 三重県	0
25 滋賀県	2
26 京都府	3
27 大阪府	9
28 兵庫県	36
29 奈良県	0
30 和歌山県	0
31 鳥取県	0
32 島根県	0
33 岡山県	2
34 広島県	0
35 山口県	0
36 徳島県	0
37 香川県	0
38 愛媛県	0
39 高知県	0
40 福岡県	0
41 佐賀県	0
42 長崎県	0
43 熊本県	0
44 大分県	0
45 宮崎県	0
46 鹿児島県	4
47 沖縄県	0

新型コロナウイルス感染症（変異株）の監視体制（全体像）

- 新型コロナウイルスのゲノム変異の状況を把握するため、国立感染症研究所において、国内の陽性検体についてゲノム解析を実施（※1）するとともに、変異株のリスク評価・分析を実施している。

※1）新型コロナウイルス約3万塩基の全てを決定する必要があるため解析に数日以上要する。

- 変異株のリスク評価・分析結果に応じて、以下の取組を実施。

(1) 感染性が増していることが懸念される変異株については、迅速に対応につなげるために、

- 変異株スクリーニングを実施（自治体で全陽性患者数の5～10%分の検体を対象に変異株PCR検査（※2）を実施）
- 変異株が確認された自治体については、抽出割合を上げて変異株スクリーニングを実施
- 国立感染症研究所においてゲノム解析を実施

※2）変異株疑い患者を数時間で判別

- (2) 免疫やワクチンの効果を低下させる可能性が指摘されている変異株やその他の株についても、迅速に発生状況を把握する必要があるが生じた場合に備え、
- 国立感染症研究所において、複数の変異を迅速に検出する検査方法の開発
 - 国立感染症研究所においてゲノム解析を実施

などに取り組む

新型コロナウイルス感染症（変異株）のスクリーニング体制

- 1/22、全国の地方衛生検査所に、変異株PCR検査手法を提供。順次、地方衛生検査所で変異株PCR検査を用いた変異株スクリーニングを開始。
- 現在、スクリーニング体制の検討中の自治体には、国立感染症研究所が変異株スクリーニングを代行して実施。

変異株スクリーニング体制

新型コロナウイルス患者

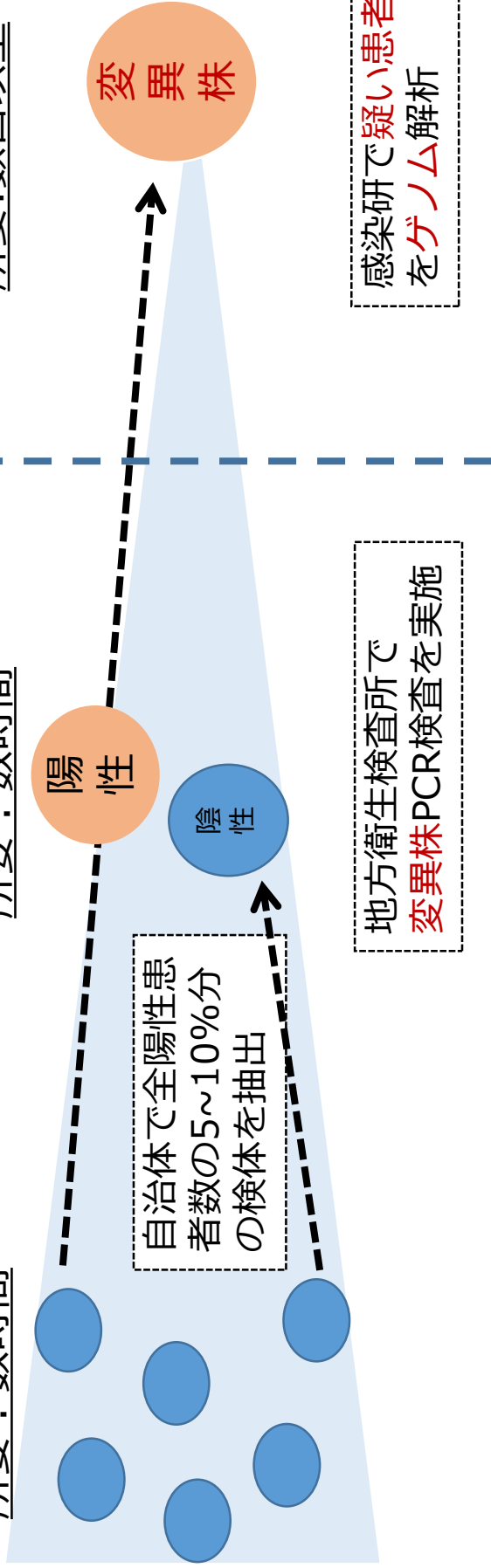
検査法：PCR検査

所要：数時間

変異株「**疑い**」患者

検査法：**変異株PCR検査**

所要：数時間



変異株「**確定**」患者

検査法：**ゲノム解析**

所要：数日以上

※変異株が確認された自治体においては割合をあげてスクリーニングを強化

変異株スクリーニング検査の実施状況【速報値】

2021/02/25時点

- 都道府県等から報告のあった検査数を計上したもの。速報値のため、今後、精査が必要な数字である。
- 都道府県別の患者数（変異株）は、自治体の積極的疫学調査等によって把握した患者が含まれており、変異株スクリーニング検査の検査数は対象期間が限定されており、これらの数字を用いて地域の変異株割合を評価することとは過大評価となるおそれがあり適切ではない。

都道府県別	検査数	期間
1 北海道	65	~2/19
2 青森県	45	~2/17
3 岩手県	0	~2/19
4 宮城県	217	2/7-2/19
5 秋田県	0	~2/19
6 山形県	39	2/12
7 福島県	158	~2/19
8 茨城県	229	2/1-2/19
9 栃木県	36	2/12
10 群馬県	22	2/12-2/19
11 埼玉県	276	1/29-2/19
12 千葉県	88	~2/19
13 東京都	1742	1/1-2/19
14 神奈川県	42	2/17-2/19
15 新潟県	90	2/9-2/19
16 富山県	32	2/2,2/16
17 石川県	157	2/10-2/19
18 福井県	54	2/17-2/19
19 山梨県	54	2/9-2/19
20 長野県	56	2/18

都道府県別	検査数	期間
21 岐阜県	39	2/10-2/18
22 静岡県	387	1/22-2/19
23 愛知県	224	~2/15
24 三重県	186	~2/15
25 滋賀県	374	~2/14
26 京都府	62	2/5-2/19
27 大阪府	131	1/22~2/19
28 兵庫県	121	2/1-2/19
29 奈良県	0	~2/19
30 和歌山県	57	2/8-2/10
31 鳥取県	0	~2/19
32 島根県	58	1/27-2/18
33 岡山県	38	2/3-2/19
34 広島県	67	2/3-2/19
35 山口県	23	2/18
36 徳島県	24	2/19
37 香川県	181	2/4-2/15
38 愛媛県	99	2/8-2/10
39 高知県	29	2/10-2/19
40 福岡県	301	2/17-2/19

都道府県別	検査数	期間
41 佐賀県	0	~2/19
42 長崎県	0	~2/19
43 熊本県	82	1/19-2/19
44 大分県	5	~2/19
45 宮崎県	1	2/24
46 鹿児島県	27	~2/19
47 沖縄県	43	~2/19

新型コロナウイルス感染症（変異株）への対応

1. 水際措置

＜現行の取組＞

- 全ての入国者に対して、①出国前72時間以内の検査証明の提出、②入国後14日間の自宅等待機等についての誓約書の提出を求め、違反した場合氏名等の公表等の対象
- 変異株流行国からの入国者に対して、①入国後3日間の待機、②入国後3日目に追加の検査を実施等を求める、③入国後14日間の健康状態の確認等について国が設置するフォロワーアップセンターが実施等

2. サーベイランス体制

＜現行の取組＞

- 感染研のゲノム解析による監視体制の強化を実施。**変異株PCR検査を開発**。全国の地方衛生研究所に検査手法を提供(1/22) PCR検査で変異株への感染が疑われた場合は、迅速に地域の感染対策を実施。
- 全陽性者数の5～10%分の検体を目安に、**変異株スクリーニング^(※)のサーベイランスを強化**するよう自治体に要請(2/5) 自治体に**変異株スクリーニングの検査数の報告を要請**(2/16)
- **民間検査機関・大学等と連携した変異株のスクリーニング検査**・ゲノム解析の体制強化(2/19)
- 変異株事例は全て**厚労省に集約して一元的に事例を発表**。

＜今後の取組＞

- 変異株流行国・地域に該当する国・地域を、確認の都度指定し公表する。
- **国内外の感染状況を見極めつつ、必要な水際対策のあり方について、引き続き、検討**を続ける。

＜今後の取組＞

- 自治体の**変異株スクリーニングの検査数等を定期的に把握**。
- 自治体による**変異株スクリーニング体制構築を支援**。併せて、**感染研による変異株スクリーニング検査の代行も実施**。(2月中をメド)
- 変異株事例の「確定」を変異株PCR検査で行うこととし、**自治体で事例を発表**。**厚労省は変異株の発生状況を週報で公表**。(3月上旬以降は、ハースミスによる**自動集計を実施**)

(※) 変異株の疑いを確認するPCR検査（変異株PCR検査）

3. 感染拡大防止策

＜現行の取組＞

- 変異株が疑われる事例への積極的疫学調査の強化や幅広い関係者への検査の徹底を自治体に要請（2/4）
- 自治体の要望に基づき、クラスター対策班の専門家を派遣し、広域事例など自治体を支援（埼玉県、新潟県等に派遣）
- 感染研による変異株事例の疫学情報の評価・分析を実施（2/17）

＜今後の取組＞

- 感染研による変異株事例の疫学情報の評価・分析を実施し、今後の対策に活用。
- 自治体の要望に基づき、クラスター対策班の専門家を派遣など自治体を支援

4. 普及啓発

＜現行の取組＞

- 感染研による変異株の評価・分析を定期的に公表
- 厚労省HPに一般向けQ&Aを掲載し、一般向けに普及啓発を実施

＜今後の取組＞

- 新型コロナウイルスの“いま”についての10の知識に変異株に関する説明を追加（別紙）
- 厚生労働省HPに、変異株に関する一般向けQ&Aを新設。

5. 研究開発

＜現行の取組＞

- NCGMのレジストリを活用して変異株事例の症例を蓄積し、変異株の臨床情報の分析や研究を実施。
- 感染研による変異株のゲノムを解析し、リスク分析を実施
- 感染研による変異株事例の疫学情報の評価・分析を実施（2/17）。

＜今後の取組＞

- 大学、感染研、NCGMが連携して、患者検体や臨床情報等を一体的に収集・解析に着手。
- 感染研による変異株事例の疫学情報の評価・分析を実施し、今後の対策に活用（再掲）。

Q 新型コロナウイルスの変異について教えてください。

A 感染力が従来よりも強い可能性がある、変異したウイルスが報告されています。これらの変異が、より重症化しやすい、ワクチンが効きにくい、とする証拠は、今のところ、確認されておらず、世界中で調査が進められています。また、子どもへの感染性に影響を与えることを示唆する証拠は確認されておらず、調査が進められています。

日本では、変異株のクラスターが複数報告され、海外とのつながりがない事例（弧発例）が継続して確認されているものの、地域で広く流行している状況ではありません。

厚生労働省では、国内で確認された新型コロナウイルスのゲノムを解析し、国内の新型コロナウイルスの変異状況を確認しています。世界保健機関（WHO）や専門家とも情報交換を行い、リスク分析を行うとともに、国内の監視体制の強化するなど、機動的な感染防止対策に努めています。

この変異株であっても、**3密（特にリスクの高い5つの場面）の回避、マスクの着用、手洗いなどの対策は、これまでと同様に有効**ですので、国民の皆様の感染予防策へのご協力をお願いいたします。

※新型コロナウイルスは、約3万塩基により構成されたRNAウイルスです。これまでの研究により、この塩基は通常約2週間で1カ所程度の速度で変異していると考えられています。塩基が変異することで、感染力の強さや、症状に変化が生じることは少ないですが、まれに、大きな変化が生じる場合もあります。ウイルスの変異の状況と臨床情報を把握することが必要です。